

1 “アーバンスポーツのまち 横須賀” 三笠公園で日本最高峰のパークール大会「PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2023」を開催

市長

本日は、大変ご多忙の中、多数の報道関係の皆様、および関係者の皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

まずは御礼申し上げます。

私は、エンターテインメント性が高く、国際色豊かな本市との親和性も深いアーバンスポーツに着目し、昨年度をアーバンスポーツ元年と位置付け、アーバンスポーツのまち横須賀の推進に力を入れてまいりました。

具体的には、BMX やストリートダンスの全国規模の大会誘致や子供達を対象にした普及事業等により、アーバンスポーツへの関心を高めるなど、その魅力を市内外の多くの皆様に広く伝えてきました。

この取り組みが実を結び、この度、今回の大会の主催者である東京都体操協会パークール委員会様に、パークール日本一決定戦の会場として横須賀をお選びいただき、横須賀市では初開催となる大規模なパークール大会を開催いただけることになりました。

パークールは、来年開催のパリオリンピック開会式でのお披露目が予定され、2028年のロスオリンピックでは、正式種目化が有力視されています。

世界から注目を集めているパークールの大会を開催していただく吉田委員長には心から感謝を申し上げます。

この大会に本市は、アーバンスポーツの普及拡大を目的とした「新たなにぎわい創出事業補助金」や、「後援」という形で連携をさせていただいており、本日は、アーバンスポーツの聖地を目指す本市の取り組みを、共に、強力で推進していただける大会主催者と共同で記者発表を行わせていただく運びとなりました。

大会の詳細はこの後、吉田委員長からご説明いただきますが、このように民間の皆様と共同で実現することができた今回のパークールの大会は、身近に競技を見ることができ、カッコ良さを感じ、わくわく感を抱けるなど、その魅力は、本当に素晴らしく大変価値のあるものだと思感しています。

この大会をきっかけに、横須賀独自の The spirit of urban sports を発信することで、次々に本市でアーバンスポーツのイベントが開催され、盛り上がることを確信しています。

あらためまして、主催者の皆様、この度の横須賀での開催、本当にありがとうございます。

私からは以上です

吉田宏 委員長

東京都体操協会の理事をしてまして、パークール委員会の委員長の吉田でございます。

なぜ、東京都体操協会が横須賀市で大会をやるのだろうか、疑問を持つ方もいらっしゃると思います。また、パークールというものが一体何なのかということもわかっていないような方々がまだまだ世の中でいらっしゃると思います。

パークールは、7年前に国際体操連盟が新たに体操競技に追加すると発表しました。器械体操、新体操、トランポリン、そしてパークールです。いよいよオリンピックを目指して、先ほど市長か

らもお話があったように、来年のパリオリンピックの開会式でお披露目を行います。
おそらく 5 年後のロサンゼルスオリンピックから、パルクールが正式種目になるだろうと注目されている新しいコンテンツです。

ただし、まだまだ普及というところが追いついておりません。全国の都道府県に体操協会がありますが、パルクール委員会自体は、まだ東京都にしかありません。

東京都体操協会だから、東京で大会を開いていけばよいということではなく、もっともっとパルクールを全国に普及させて、パルクールの本質を普及させていくことを目指しておりまして、ぜひ、今年は横須賀市でパルクールを発信していこうと思っています。

では、なぜ横須賀市なのかということに関して申し上げますと、先ほども市長からお話がありましたが、まず横須賀市はアーバンスポーツというものを、まちとして全面的に押し出しているということがあります。また横須賀という場所は、元々アーバンスポーツ、アクションスポーツ、アクティブスポーツ、そして音楽エンターテインメントというものが、非常に根付いているまちですので、この横須賀から新しいコンテンツを全国に発信し、横須賀市が全国の都道府県のリーダーシップをとっていくというようなことを、微力ながらも、私ども東京都体操協会パルクール委員会、ぜひ、一緒になってやっていけたらいいなというふうに思ったのがそもそもの始まりです。

そして横須賀市はご存知の通り都心からも非常にアクセスも良いので、やはり、もっともっと横須賀のまちを、若い方から高齢者の方まで楽しむことができるようなまちにできたらなというのが私の考えであります。

ということで 10 月 28 日に三笠公園でパルクール大会を開くのですが、今回どういった大会を開くかということを中心に簡単にスライドでご説明したいと思います。

「PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2023」という名前、これはどういうことかということ、まさにトップオブジャパン、日本一決定戦を横須賀で行います。

私のプロフィールです。私は元々スノーボードの分野で、選手をたくさん育てておりまして、今まで 8 人の選手をオリンピックに出場させたという実績がありますが、今度はパルクールを世界に広げていくために、このようなトータルマネジメントを行っているところです。

パルクールはスポーツというよりは、トレーニング文化です。元々はフランスの軍隊が始めたもので、いかに安全に移動していくかというトレーニングを積んでいくものがパルクールです。したがって、アクロバットではございません。みなさんは子供の頃に 1 本の線があったらその上を、友達とずっと歩き続けたという経験があるのではないのでしょうか。まさにそのようなものがパルクールのトレーニングの一環と言えます。

パルクールは基礎体力を整えるものであること。スポーツ競技としてこれから発展していくものであること。それからもう一つ重要になるのは健康リハビリの側面です。

子供たちがもっと健康になっていくための体作り、これから少子高齢化で 60~80 代の人が多くなっていく中で、いかにシニアの方々に安全に移動してもらうか。歩行は移動術なので、いかに安全に移動するかということはパルクールのトレーニング文化に非常にマッチする部分でありますので、これからはぜひ横須賀市と協議をしながら、シニアに向けたパルクールというようなものも開発していきたいと考えております。

国際体操連盟はアーバンスポーツがオリンピック競技になることを目指してありますが、これは 5 年後のロサンゼルスオリンピックで達成できるのではないかと考えております。

また、現在、パルクールって何だろうというように、全世界からインターネットで検索され、今、パルクールが世界で WEB 検索シーンを圧倒的にリードしております。

東京体操協会として、今までどういったメディア露出をやっているかといいますと、パルクールは、非常にメディア受けが良く、後で紹介する選手たちも、NHK さんに取り上げられたり、特集されたりしています。また、その他のいろいろなパルクール選手、パフォーマーもメディアに取り上げられることが多くなってきております。

今回の大会は、ヤフーのスポーツナビで全世界にライブ中継をいたします。ライブ中継の中で、視聴者が「この会場はどこなの」と疑問をいただいたときに、横須賀にある三笠公園とわかるように、映像でしっかりと観光のアピールができるようにライブ中継をしたいと思います。

過去のメディア露出に関してですが、東京都体操協会主催で 2020 年に淡路島、2021 年に東京都の大手町と 1 年に一度の頻度で 2 回の開催実績があります。常にライブ中継をしておりますが、アクセスや同時接続数は過去最高を記録しており、今回もさらに過去最高を更新できるよう、メディア露出をしていきます。大会当日は各民放局にもお越しいただいて、ぜひスポーツニュースで取り上げてもらうような形でできればと考えています。ライブ中継をするので、大会が終わり次第、映像をすぐにスイッチアウトし、希望された各民放局ほか、各メディアのみなさまに無料で配布いたしますので、ぜひご活用していただければと思います。

過去の大会はそのように、東京都体操協会の主催、共催もしくは後援という形で、いろいろな場所で大会をやっております。

ちなみに今年の大会について申し上げますと、先月、札幌市で東京体操協会の共催で大会を開きました。それから今週末、山口県で日本選手権が行われます。10 月 1 日には、岐阜市役所の前で東京都体操協会の共催で岐阜大会を行い、10 月 28 日に今シーズンのファイナルを横須賀で行います。毎年、全国各地で私どもがノウハウを出して、各地域と協議をしながら大会を開き、パルクールとはいったい何なのかということを広めていく活動をしております。

あらためまして今回の「PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2023」は、2023 年 10 月 28 日土曜日に開催、雨が降った場合の予備日は日曜日としております。午前中に予選会、午後には決勝という形です。

種目は、まず、フリースタイル。フリースタイルとは、各オブスタクルと言われる障害物を活用して、そこで回転をしたりしながら進むジャッジ種目です。

次に、スピードラン。A 地点から B 地点まで、障害物を誰が一番早く移動していくかというタイムレースになります。そして最後に、プレジジョンスキル。規定演技みたいな感じですかね。

「ここからここをこういう形で飛んでください」、「こういう形にしてください」という種目もあります。普段、日本ではなかなかこういった種目を大会でやるってことはないんですが、今回はパルクールってどういう種目があるということも、ぜひ演出していきたいなと思いますので、フリースタイル、スピードラン、プレジジョンスキルという 3 種目で、日本のトップであろう男子女子を約 10 名から 20 名インビテーションします。予選で上位何名が決勝戦進出ということではなく、フルインビテーションで行いたいと考えております。

アーバンスポーツのまち横須賀での開催について申し上げますと、横須賀という地は、非常にスキルの高いまちだと考えています。まだまだ全国で知られていないですが、これからの横須賀の発展、パルクールの発展を一緒になってやっていこうという強い気持ちがあります。

今回の出場選手です。今回の大会には日本のトップが全員出場します。

後ほど紹介しますが、鈴木智也、大貫海斗とまさにビッグ 2 の 2 人が今日ここに来ています。

ちなみに鈴木選手は、神奈川県の小田原市出身です。

次に今大会のスペシャルゲストは、皆さんご存じモンスターボックスの世界記録を持つ池谷直樹さん、そしてゴールデンボンバーのギター喜矢武豊さんです。

池谷さんと喜矢武さんとは、昨年、一昨年から、ぜひパルクールをもっとエンターテイメント的にも広げていこう、パルクールの本質をきっちり広めていこうということで意気投合し、池谷さんには顧問として、喜矢武さんには広報部長としていろいろとご尽力いただいております。

今回の会場施設のオブスタクルは、最終設計がもう少しでできあがりますけども、大体縦 30 メーター、横 15 メーターぐらいの大きさです。ちょうど記念艦三笠の前に設置したいと思います。ぜひ期待してください。

以上が簡単な大会概要説明になります。ご質問がありましたら、また後ほどお受けしたいと思います。パルクールってどんな競技なのか、競技人口ってどれくらいなのだろうという疑問はあると思いますが、競技人口は倍々で増えています。ぜひ皆さんにも注目していただきたい。

今回の大会に関しては、一発打ち上げ花火とは考えておりません。横須賀市さんとはこれからパルクールを広げていきつつ、市民の皆さんに参加していただき、健康になっていただきたいということを考えております。ぜひ注目していただければと思います。

ありがとうございました。

～選手紹介～

【鈴木選手】

昨年 3 月に行われた東京大会で優勝し、10 月の第一回パルクール世界選手権フリースタイルで 4 位入賞を果たされました。

そして今季はパルクールワールドカップ第 1 戦フランス大会にて日本人男子過去最高位となる準優勝となり、名実共に世界の TOMOYA になりました。

今回の横須賀大会の優勝候補です。

【大貫選手】

弱冠二十歳にしてすでに世界でも大注目され、特に今シーズンは出場したすべての大会にて優勝か準優勝をされています。

8 月にロサンゼルスで行われた世界大会では、世界初コンクリートハードフロアで 4 回転を決めベストトリック賞も受賞されました。

横須賀大会でもどんな技を繰り出すのか、世界が注目しています。

～選手パフォーマンス・インタビュー～

鈴木智也 選手

先ほど紹介にあずかりました、パルクールアスリートの鈴木智也と申します。

パフォーマンスいかがでしたでしょうか。

このように記者会見を開いていただき、とてもありがたく思います。

横須賀の大会では、前回の東京大会に引き続きもちろん海斗選手を倒して 1 位を狙っております。大会の優勝ももちろんですが、こういったアーバンスポーツ、パルクールにご支援をいただき、アーバンスポーツの普及ができるように、僕たちも良いパフォーマンスを目指しています。ぜひ皆様、応援よろしく願いいたします。

大貫海斗 選手

先ほど紹介にあずかりましたパルクールアスリートの大貫海斗です。

まず、今回、横須賀で10月28日に「TOP OF JAPAN」という大きな大会を開いていただけることをとても嬉しく思います。

横須賀の地でこちらの智也選手を倒して優勝し、そして最大限自分の魅力を発揮できたらなと思っています。応援よろしくお願ひします。ありがとうございました。

池谷直樹 顧問

ご紹介にあずかりました池谷直樹です。よろしくお願ひいたします。

僕は体操競技をやっていて、そこから皆さんもご存知のとおり、跳び箱を飛んだりしております。その僕が、なぜこのようにパルクール委員会の顧問をやっているかという、ひとえに吉田さんの熱意です。

パルクールが体操競技とは違う点をお話しします。宙返りしたり飛んだり跳ねたりするということで、体操とかそういうものをイメージすると思うのですが、やはりパルクールと体操競技はちょっと違っています。体操競技はいろんな器具を使ってやりますが、このパルクールは自然にあるものでできます。体操だとそういう器具がないとできませんが、パルクールは自然の中で障害物があればできます。またパルクールがオリンピックの種目になっていくということもあり、盛り上げたいなと思っています。

この横須賀の大会では、日本一を決めます。パルクールというものの全てを知っているというわけではありませんが、当日は僕も会場に行って、知らないところも含めて、逆に皆さんに伝えていきたいと思っています。パルクールを知らない人が、パルクールをどう見てるのかなという視点から、パルクールの説明をしたいと思っています。

そして、横須賀の人だけでなく、市外からも横須賀に来ていただいて、実際に生でこのパルクールの大会を見ていただきたいなと思っています。ぜひ皆さん応援よろしくお願ひいたします。

喜矢武豊 広報部長

パルクール委員会の広報部長を務めさせていただいております喜矢武豊です。よろしくお願ひします。

こういうお堅い場で喋るのは初めてでして、恐らくこの場に似つかわしくないメイクをしていると思います。その辺はご了承いただくと助かります。

僕もなぜ広報部長をやっているかといいますと、とあることでパルクールと知り合うきっかけがありまして、それからパルクールを観ることに魅せられたのですが、実際にやってみて、吉田さんが言ったように、基礎体力の部分が非常に向上しました。僕はいろいろなスポーツや役者業をやっています。その中でアクションの部分や、また日常生活でも、パルクールと触れ合うことで体のことがすごくわかるようになりました。

スポーツや仕事面で生かされる部分がすごく多いと感じましたので、僕はぜひとも全国民にパルクールをやってもらいたいって思うぐらい勧めています。

僕自身も間近で競技のパルクールを見る機会が少ないので、横須賀市で最大規模のパルクール大会を観ることができるということを非常に楽しみにしております。

みなさんも、絶対に魅了されると思います。パルクールに触れる機会もあまりないのかなと思いますので、ぜひたくさんの方に来ていただいて、横須賀市を盛り上げていけたらなと思います。どうぞよろしくお願ひします。

～池谷顧問・喜矢武広報部長のかけあい～

池谷直樹 顧問

パルクールについて、喜矢武さんも初めて大会を観たときはどう思いましたか。

喜矢武豊 広報部長

パルクールをやっている身からしてもすごいと思ったのですが、だれが観てもすごいと感じると思います。

池谷直樹 顧問

そうですね。だからこそ実際に生でみなさんに観に来てほしいんですよ。

喜矢武豊 広報部長

そうなんです。個人的にはパルクールでは、仲間あるいは競技相手の方と健闘を称えあうという場面を観る機会が結構ありまして、そういうところも僕は魅了されましたね。

池谷直樹 顧問

YouTube などでも見ることはできますが、実際に生で見ると高さであるとか、そんなところからこんなことをするのかと驚くことがたくさんあると思います。

さっきのパフォーマンスでもみなさんから驚きの声が出ておりましたが、あんなもんじゃない。

喜矢武豊 広報部長

あんなもんじゃないです。

今日は多分2割ぐらいの力でやっていたと思います。

池谷直樹 顧問

そうですね。

実際はもっと高さがあります。この部屋だと天井くらいの高さになると思います。

それを観に、ぜひ横須賀市に集まっていただきたい。公園も非常に綺麗なところで、みなさんで盛り上げていただきたいなと思います。

喜矢武豊 広報部長

個人的にはスピードランという競技を自身の目で観ることが初めてで、楽しみです。

スピードランは、パルクールの本質に近いかなと思います。いかに障害物を速く安全に駆け抜けるかを競います。

池谷直樹 顧問

だから観る方もシンプルです。

スタートからゴールまで、どうやって行ってもいいから速く行ったもの勝ちなのですが、行き方が選手によってすごく違う。

そんなところに行くの！というのも、それもまた楽しいところではないかなと思います。

そういった意味でも、ぜひ生で観ていただきたい。

喜矢武豊 広報部長

興味のない方でも観ていただければ、すごいな、面白いなとわかると思います。

池谷直樹 顧問

ぜひみなさんも横須賀に集まっていただきたい。僕たちも会場に来て、何かをしていますので、

会いに来ていただければと思います。
会いに来るついででもいいので、パークールも見てください。

喜矢武豊 広報部長

現場で、ぜひ握手とかもしてください。
みなさんよろしくお願いします。

池谷直樹 顧問

よろしくお願いします。

～シンガーソングライター Soala 氏より大会応援ビデオメッセージ～
～フォトセッション～

■質疑応答

記者

横須賀市とパークールという競技が繋がったということで、二者による相乗効果、観客動員も含めて期待することはどのようなことでしょうか。
あらためて二者にお伺いいたします。

市長

アーバンスポーツの聖地にしたいと思い描いているときにお声がけをいただきました。BMX に関しては、いろいろなところで話題になっています。
元々パークールはテレビで拝見していたこともあり、ぜひ横須賀に来てほしいなと思っていました。これが相乗効果になって様々な仕掛けづくりができるのではないかと、と思っています。
一方で、音楽もありますし、私が求めていた横須賀のわくわくする街として、横須賀に欠かせないテーマになると期待しています。

吉田宏 委員長

どれだけの方がこのパークール大会を観に来ていただけるのか、私も非常に注目しているところです。

この仕掛けに関しては、大会があるというだけではなかなか広まらないので、今日を皮切りに SNS 等での発信、駅へのポスター掲示、そのほかチラシを作成し、いたるところに配布します。チラシについては、都内でも配布予定です。

そういったアナログ的なこともやりつつ、メインは SNS を使って「こういった大会があるので、横須賀にきてね」と発信します。

また、池谷さん、喜矢武さんも大会当日にスペシャルゲストとして会場にお越しいただくこともオフィシャルに告知していきながら、いろいろな方が「パークールを見に行ってみよう」「横須賀に行ってみよう」となるような数々の仕掛けをしていきます。

シンガーソングライターの Soala さんも SNS でかなりのフォロワー数を持っているので、パークール業界だけではない多角的なところから今回の横須賀大会を発信していきます。

これからの1か月間、たくさんの情報を発信し、会場にお越しいただくか、お越しいただくのが難しい方は、スポーツナビでのライブ中継をご覧いただければと思っています。

記者

市長にお伺いします。

吉田委員長のお話で、1回きりではなく継続的に横須賀でパークールを発信していきたいというお話でしたが、スケボーもオリンピックを機に競技人口が増え、練習場所が足りずにうみかぜ公園にたくさんの人が集まったという経緯があります。

パークールは自然にあるものでも練習できる競技ではあると思いますが、パークール用の常設の練習場を市内に作る予定はありますか。

また、吉田委員長にお伺いします。

現在、全国の中で、練習したい方が訪れられるようなパークールの専門施設はありますか。

市長

先ほど吉田委員長とは、三笠公園にそういった施設があればいいなという話をしました。工夫次第では、三笠公園で様々な仕掛けづくりができると思っており、そのような施設も考えていきたいと思っています。

吉田宏 委員長

パークールの専門ジムは、毎年増えています。東京では江戸川区や大田区の馬込に専門ジムがあります。それ以外のアクロバットジムと言われるところでも、パークール教室を開催しています。本日出席している鈴木選手と大貫選手もパークールジムで講師をしながら自らのトレーニングをしています。

全国的に見た場合は、パークール教室を開講しているところは20か所前後で、有名なところとなると10か所前後になりますが、年々、確実に増えてきています。

これはあくまで私の推測になりますが、おそらく5年後には、パークールジムが100を超えてくるのではないかと思います。

ただ、懸念もあります。まだまだパークールを教えるコーチたちが育っていないことです。現状は、現役選手が教えているという段階ですので、その辺りのスキームを今から作っていくことも、ぜひ横須賀市と共同で考えていけたらなと思っており、市長とお話をしていたところです。

記者

鈴木選手と大貫選手にお伺いします。

パークール競技の魅力はどのようなところでしょうか。また、横須賀大会に期待することもしくは思いがあれば教えてください。

鈴木智也 選手

パークールの魅力は、技のひとつひとつに着目してみると、障害物をひとつ越えるだけでもパークールの技と認められるものが多く、習得が簡単なものがたくさんあります。

僕たちが先ほどパフォーマンスで行った空中技だけがパークールではなく、ただ前に大きくジャンプして、止まるだけでも、技として認められるので、誰でも簡単にできます。また、技が成功すると、それだけで達成感が得られ、その達成感が少しずつ増えていくとやる気につながります。危なっかしい技をたくさんやっている人を見ると「パークールって危険なのかな」と思われますが、小さな技でもパークールになります。子供からお年寄りの方まで、誰でも気軽に参加できるスポーツで、それも魅力の一つかなと思います。

横須賀大会については、パークールはまだ発展途上のスポーツであると思います。この大会を通してYouTubeやライブ配信などで全国の方に見ただけだとパークールの知名度もより上がっていくのではないかと考えており、まずはみなさまにパークールってどんなものかということを知っていただきたいと思っています。

大貫海斗 選手

鈴木選手と似たような回答にはなってしまいますが、パルクールの魅力は、選手それぞれの技や動作、そのひとつひとつにその人の個性、がんばりが見えるところや、自分の今までの努力の積み重ねが結果になる楽しさ、誰でも気軽に始めることのできるスポーツということです。

僕の知り合いでも、パルクールは危ないという印象をもっていて、パルクールを始められない方が多いのですが、実際にはそんなことはなく、僕と鈴木選手がコーチをしているジムでは、幼稚園児から 60 代の方までがいらっしゃいます。年齢に関係なく始められることも魅力のひとつです。横須賀大会については、僕自身がまだ横須賀のことをあまり詳しくないので、この大会を機に横須賀を知っていけるわくわくさがあり、こういった場で記者会見をさせていただき、大会が開けるといところで喜びを感じています。

パルクールの魅力を横須賀から日本、そして世界にも届けられるようにしていきたいです。

記者

前回の大会では、大会後に*トレーサーが使えるように施設を開放していたと思います。今回の大会後も、同様に施設が使えるようにする予定はありますか。(※パルクールを実践する人)

吉田宏 委員長

まさに今日、*オブスタクルの制作をする者と、オブスタクルの撤去日をいつにしようかと打ち合わせをしておりました。天気がよく、土曜日に大会を終えられた場合は、日曜日も予備日として公園を借りているので、安全管理の係員をつけて日曜日に開放することを考えています。(※パルクール競技の障害物)

大会に出場していないトレーサーにも練習をしてもらい、または、オブスタクルを見たことも触ったこともない方がほとんどなので、例えば地域の子供たちにちょっとした体験的なものができたらいいなと思っています。

記者

選手のみなさん、とてもかっこよかったです。

パルクールは健康リハビリ、基礎体力づくり、スポーツ競技、と全世代を包含する生涯スポーツであるとのことですが、今回の大会はスポーツ競技としての決勝戦がお披露目されるということでしょうか。

また、予選・決勝には全国から何人の選手が出場されて、選手の年齢はどのくらいでしょうか。加えて、危険なスポーツとの印象をもたれがちだが、そんなことはないというご説明でしたが、着地する床はコンクリートではなく収縮性、安全性のある素材を使った会場で開催されるのでしょうか。

吉田宏 委員長

選手は、男子はフリースタイル、スピードランで各 15 名、プレジジョンスキルで 10 名です。女子はフリースタイル、スピードランで各 7~8 名を招待します。大会は予選・決勝ということではなく、一発決勝と考えています。

しかし、招待した選手以外にも、大会に出たいという選手もいると思います。誰でも出ることができる大会ではありませんが、午前中に簡単な予選会を開催し、その中から優れた選手が数名、決勝に出場するということを考えています。出場選手については、現在、最終チェックをしている最中です。今月中に出そろう、随時、ホームページで紹介していく予定です。

また、競技場については、本来パルクールは自然の中で行うものなので、地面がコンクリートということが多いです。

今回の大会も、三笠公園のコンクリートのハードフロア上にオブスタクルを置きます。コンクリ

ートの上で行う難易度の高い最高峰のパークール大会になる予定です。

大会によっては、ベニヤで台を作るものもありますが、今回はコンクリートの上で行うということで、日本のトップではないと怖くて演技ができないと思います。

パークールと器械体操競技との大きな違いはそこにあります。器械体操競技の場合は、体育館で行います。そのため、器械体操競技の選手でも、コンクリートの上では怖くて技ができないということが起きてしまいます。

ですので、回転して高いところから着地するにしても、パークールの選手は固いところに着地した際の、体への負担を逃がすトレーニングを行っています。そうでない方は着地でケガをしてしまうと思います。そういったところが他のアクロバティックな競技との大きな違いです。

今後の大会では、ベニヤなどを使って、コンクリートではないものも将来的に考えていきたいなと思っていますが、ベニヤ等を取り付けることで費用が大きくなってしまう側面もあります。

記者

器械体操と同じように審査員の採点で優劣をつけるのでしょうか。

吉田宏 委員長

フリースタイルとプレジジョンスキルは審査員による採点で優劣を決めます。

スピードランは、1/1000秒まで計測するタイムで勝敗が決まります。

記者

池谷さんと喜矢武さんにお伺いします。

日本最高峰のパークール大会が横須賀で開かれるということで、どんな大会になることを期待していますか。

また、地域の方には何を見てもらって、どう感じてほしいと思っていますか。

池谷直樹 顧問

一番は、たくさんの方に見ていただきたいとっていて、ぜひ横須賀に集まっていただきたいという思いです。

たくさんの方の観客の歓声の中でパフォーマンスをすることで、選手たちの気分も上がります。また、大会自体も盛り上がると思います。

この記者会見なども通じてたくさんの方に情報発信し、横須賀大会に多くのお客さんにお越しいただきたいと思っています。パークールをたくさんの方に広めるためにも、この大会を見てもらいたいと思っています。

喜矢武豊 広報部長

この大会は日本で行われる最大規模のものになると吉田委員長が息巻いておりました。

選手もかなりレベルの高い方が集まると聞いていますので、競技として素晴らしいものになると思います。

また、個人的には、映像よりも生で見た方が絶対にいいと思います。どの選手も一生懸命にやっていますし、絶対に勝ちたいという気持ちが見えてきます。練習風景からも勝つためにレベルを上げたり、抑えたりと気持ちの部分が見えてきますので、そういったところが、僕が過去の大会を見て非常に惹かれた部分ですので、今回も見れたらいいなと思っています。

また、僕はみなさんにパークールに触れてほしいので、そういったことをきっかけとして、これまで興味がなかった方も、もちろん楽しめると思いますし、少しでも興味を持ってもらえたらなと思います。

■報告事項

令和5年度渡米について

市長

10月9日から18日までの10日間、大野議長と一緒に渡米します。主な訪問先は、ノーフォーク海軍基地、ワシントンDCの国防総省（ペンタゴン）、米海軍原子力推進機関部と、ホノルルのパールハーバー基地です。

今回の訪問の目的は、来年後半に横須賀に前方展開を予定されている空母ジョージ・ワシントンを実際に視察すること、そして現地で関係者とお会いし意見交換することです。また、米海軍のトップの方々と直接お会いすることにより、横須賀の重要性をあらためて認識いただければと考えております。

私からは以上です。

■案件以外の質疑

記者

1973年に空母「ミッドウェイ」が横須賀に配備されてから、10月で50年の節目となります。地元では米兵と合同で基地周辺をパトロールするなどの交流が引き続き行われているところではありますが、その間にも乗組員の薬物問題などの横須賀市が対処しなければならない問題もいくつかでてきたと思います。

来年には「ロナルド・レーガン」に代わって「ジョージ・ワシントン」が再び配備されるということで、ここ50年の横須賀市の基地の対応について所感をお願いします。

市長

50年前というと私は19歳でした。まだ学生運動があった時代、米軍への反発もあった時代でした。その流れの中で横須賀市が母港になりました。隔世の感があります。時代は変わったなと思います。

私もその時代には、いろいろな運動をしていました。時代の流れとともに世界情勢も変わり、日米の関係も強化され、その流れの中で現在が存在していると考え、新しい時代になっても日米の関係は進化していかなければならないと思っています。激変する世界情勢の中で、日米はより強力に同盟関係を結んでいかなければならないと思っています。

記者

市と米軍の付き合いというのは昔と変わって来ていると思います。

近年の米軍との向き合い方というのは、アメリカ文化との向き合い方という歴史があると思いますが、そういった面で変わってきたというのはどのように感じていますか。

市長

50年前は、異質な文化に対する態度、それと戦争の被害というものもあり、向き合っていたという事は確かだと思います。

*FENから音楽が流れてきて、やっと安全になったというのもよくわかりましたし、（※米軍向けに放送されていたラジオ）自由というものがどういうものかを見せてもらいました。一方で暴力的な問題もある中でどういう風に日本人がしていくべきなのかと、私はつくづく考えていました。その中で、民主主義、自由主義といったいいところを見せていただいたのだから、日本がより民

主的になってきたという意味では、アメリカとの関係が進化していく中で、日本も成長してきたのではないかと考えています。

かつては、アメリカでも差別のない社会ということではなかったですが、アメリカも色々な歴史がある中で進化してきました。横須賀には、米軍基地があり、我々もアメリカの進化を見てきたことでお互いに成長してきたのではないかと、そして同盟関係も進化していくべきではないかと考えています。

記者

「ロナルド・レーガン」の出港が、ここ数日何度か延期されていますが、このことについて市長の見解を教えてくださいませんか。

市長特命参与

今回、4回、出港が変更になっているわけですが、平成30年にも変更になったことがあります。これはあくまで運用に関する変更です。

米軍とは、お互いに関係する内容について、速やかに情報提供するということになっております。そういった意味で、米側から情報がないということは、出港の変更については、あくまで運用上の問題と理解しています。

記者

冒頭でお話のあった渡米について、海軍基地やペンタゴンを回られるというお話でしたが、横須賀市から米側に伝えたいことがあれば教えてくださいませんか。

市長

信頼関係をもう一度築きたいというところです。

外交は政府の特権ですが、当該自治体として言うべきことは言いたいし、率直な関係になりたいと思っています。

以前に渡米した際やインターネットでもお話させていただいた際に、安定的な運用をお願いしました。当該自治体の長として、直接訪問するときもあるかもしれないという話もさせていただいております。今回もそのような話になると思います。

記者

米空母の交代に関する事で、特定の事を申し入れたい事はありますか。

市長

それはありません。

私には米軍だからとバイアスがかかってきたという考えはありません。シンプルに向き合っています。是々非々で話ができる関係になると思っています。そこに外交の話はありません。

率直に自治体の長として、話ができる関係をもう一度構築したいということです。

ペンタゴン等とつながれば、より司令官との関係も進化していけるのではないかと考えています。

記者

今回の渡米の動機は再び配備される「ジョージ・ワシントン」を自分の目で見るということが強いということでしょうか。

市長

はい。そうです。

記者

今回の渡米は、市長から米側に申し入れたんでしょうか。

市長

そうです。

記者

メインは、「ジョージ・ワシントン」の視察というところになるのでしょうか。

市長

その通りです。

記者

具体的に、いつ、どこに行くというスケジュールは決まっていますか。

市長特命参与

どなたに会うのかも含めて、調整中です。
確定次第、お知らせさせていただきます。

記者

10月2日に市議会、市長、市職員でジェンダー平等の研修会をされると伺いました。この研修は6月議会での市長のミトコンドリア発言を受けて開催されるのでしょうか。

市長室長

研修は毎年やることになっています。
その中で市議会とお話をさせていただいて、決まったものです。市長の発言とは関係ありません。

記者

渡米について、10月9日から18日までの10日間で、市長と議長を含め総勢何名で渡米されますか。今回の行き先はどちらになりますか。また、前回渡米されたのいつでしょうか。横須賀に空母が配備されてから半世紀が経ちました。配備されていることへの是非は無く、日米関係として受け入れの姿勢であるとのことでしたが、市長が空母が配備されていることの課題とされていることはありますか。

市長

行き先はワシントンD.C.の議会、ペンタゴン、ハワイです。

市長特命参与

前回の渡米は、4年前の2019年8月です。
今回は、市長と議長、職員4名の合計6名で渡米予定です。

市長

私は自治体の首長であるため、いうべき立場ではないのですが、ロシアでの戦争、中国の海洋進出、北朝鮮のミサイルなどの激変する世界情勢において、日本はどういった立ち位置なのかと国防のことを考えたときに、横須賀は非常に重要な位置にあるのではないかと感じています。

安全保障のためにも日米の関係を強化し、連携をとっていかなければならない、その中心地に横須賀があります。私に何が出来るか、できることはしていきたいと考えています。

記者

首長として市民のみなさんの考えをアメリカ国防省にお伝えするお気持ちはありますか。

市長

認知をされていて、これまでの 50 年の中で、私と同じような思いを持っている方もいると思います。もちろん基地に対して反対される方もいるでしょう。

ただ、それは、時代の流れの中の一コマであって、それを伝えるつもりもありませんし、より進化した形でお互い付き合っていこうじゃないかということをしめ合わせたいと考えています。

記者

原子力空母の事故は絶対に起こりえないと米側は認識を示していますが、とは言え何が起こるかはわかりません。原子力艦のチェックは粛々とされていると思いますが、現状に見合った訓練だと思われませんか。

市長

それは原子力発電所でも同じものではないかと考えています。

現状に見合った訓練というものを、みなさんがどういう状況を想定しているのかわかりませんが、事故が無いという前提の中でも、米側は、こういった訓練を、よくやっていただけているなど思っています。

記者

ピーフォスの問題について、フィルターを設置したことにより、現状、有害物質は何もでてないとは思いますが、原因がはっきりしなかったということでしたので、対策や原因究明を改めて求める考えはありますか。

また、信頼関係をもう一度築きたいとのことでしたが、何か不信感のものではないかもしれませんが、こういった部分で信頼関係を築きたいとお考えでしょうか。

市長

ピーフォスについて話題にはしないつもりです。

市長特命参与

ワシントンDCの原子力推進機関に行きます。この米原子力推進機関部とは、アメリカの原子力艦の総元締めというか、本部です。そちらの大將ないしはスタッフの方たちと直接お会いして、市長に横須賀市との信頼関係をお作りいただくという趣旨で、事務作業を進めています。

市長

大將とは懇意にさせていただいていて信頼関係はすでにありますが、お会いして率直にお話ししたいと考えています。

記者

それでは、原子力空母についてお話をすることですね。

市長

そうです。

記者

「安全性の根拠について、もう少し説明してください」とお話しするということでしょうか。

市長

安全性の根拠は、今まで説明を受けていて、理解しています。

記者

米原子力推進機関部の大将と会うことで、何の信頼関係を構築したいのですか。

市長

これから何か起きたときに率直にお話ができる信頼関係を構築したいと考えています。

記者

何かがあった場合の対応とは何を考えていますか。

市長

何かというのは、事件や事故だけを想定しているわけではありません。

空母を含め原子力についてはこれからも様々なことが起きるであろうと思っています。それに対して率直にお話しできればと思っています。

記者

米海軍トップの方と直接話すことで信頼関係を作り、その上で何ができて市政にどうやって生かすのでしょうか。

市長

米側との関係も、みなさんとの人間関係と一緒にと思っています。

信頼関係がなければ、そもそもお話しすらしていただけないと思います。その基本に立っているだけです。

米軍だから、首長だからということではなく、私は「人としてこう感じています」と話をするところからでないと、物語は始まらないと思っています。

4年間お会いできていなかったということもあり、お会いして、お話しをすることで、もう一度信頼関係を確認しあう、という意味で捉えていただければと思います。

その先に何かあるのかではなくて、まずは信頼関係がなければ、いろいろな話ができないと思っています。

市長特命参与

補足いたします。市長は、「信頼関係」とは、直接会って顔が見える関係を作り上げていくという意味で言っています。さきほど市長からお話したように、顔が見える関係があれば、何かがあったときに率直に話ができるということです。

市長

何かがあった、というわけではありません。これからの時代、何かは起きるでしょう。

何かが起こった時に、横須賀の首長として、米軍に率直に言える関係になっておいた方が良いでしょうということなのです。

自衛隊のトップとそういった関係になっているように、国だけではなく、米軍ともそういった人間関係を作るべきなのではないかと思えます。顔の見える関係であった方が良いではないですか。私はそう生きてきたし、これからもそのように生きていくし、そういう話をしています。

記者

新しく空母が「ジョージ・ワシントン」になるということで、それを直接見聞きすることが目的で、あとは信頼関係の醸成、確認ということですね。

市長

信頼関係の醸成、確認と「ジョージ・ワシントン」を視察することです。そして、過去にお会いした旧交のある司令官たちとも、信頼関係をあらためて確認したいと思います。

記者

「ジョージ・ワシントン」は従来のままのものではなく、装備も変わってよりバージョンアップもされていると思うので、そういったところも見てくるということですね。

市長

そういった説明も受けてきたいと思っています。

記者

今回行く時期については、何か理由があるんでしょうか。

市長特命参与

議会日程と市長、議長のスケジュールを合わせて決めさせていただきました。

記者

12月に向けて、これからのふるさと納税のかき入れ時ということで、横須賀市としてもいろいろセミナーなどを講じて流入額はかなり伸びてるということですが、今後何かこのふるさと納税に対する市長としてのお考えや、何か進めていきたい戦略などがありますか。

経営企画部長

財政が厳しい中で、民間企業と一緒にあって流入額を増やしていきたいという考えを持っています。経済部でも担当セクションを設け、個人のふるさと納税の獲得も増やしています。また、民間企業向けふるさと納税では、民官連携のホームページを立ち上げ、市に様々なご寄附をいただいて、一緒に進めたい事業を文化スポーツ観光部の事業に限らず、テーマ出しをしています。そうした中で、子育てなどでもいくつかのお問合せ、ご寄附いただいている部分もあります。

市長

財政状況が厳しいので、どんどん進めていきたいと思っています。同時に横須賀の産品も売り出すことができるので、併せて経済効果もあるのではないかと考えています。

以上